

☆桑名市正和中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

正和中学校区は、東員町や四日市市に隣接し、自然に恵まれた環境にあります。水田の広がる古くからの地域と新興住宅地からなる2小学校、1中学校で構成された校区です。

校区には、様々な要因によって自尊感情や学習意欲の向上を阻まれている子どもたちが在籍していることから、子どもたちの自尊感情を高め、学習意欲の向上をめざすために、より効果的な取組を創り出す必要があると考えました。そこで、正和中学校区子ども支援ネットワークの構築を図り、学習支援や登下校の見守り等、これまで地域住民が様々な場面を通じて子どもたちに深く関わってきた取組を整理し、各種団体・関係機関等との連携や幼小中高による校種間連携を一層深めながら取組を進めてきました。

2 課題解決のための主な取組

(1) 保護者や地域住民をはじめとする多様な主体による子ども支援

「久米っ子フェスタ」（久米小学校）では、地域住民や保護者、教職員が、家族で楽しめ、子どもたちが意欲的に活動できる「縁日」「異文化体験」等のコーナーを開設し、子どもたちと地域住民がふれあい、つながりを深める機会となりました。とりわけ、5年生は、地域住民から稲作の指導を受けて育てたお米の販売やそのお米で作ったお菓子を販売することによって、学習の成果を地域に発信することができました。



ものづくり体験

また、「七和にじ色フェスティバル」（七和小学校）では、様々な技能をもった地域住民や保護者が、「工作」「調理」等の体験講座を開設し、地域住民からは「実際にふれ合って知り合うことで、校区内で会ったとき声をかけやすくなった」等の声がありました。とりわけ、4年生を対象とした講座では、近隣の高等学校の生徒が講師になり、科学実験を兼ねたものづくり体験を実施しました。「マドラーづくり」等を高校生といっしょに取り組んだ子どもたちの中には、丁寧に教えてくれる高校生に親近感を持ったり、高等学校そのものに興味を持ったりする子どもがいました。



「久米っ子米」の販売

正和中学校3年生の人権学習では、人権に係わる機関や団体の支援を受けて取り組みました。学習のねらいを「さまざまな立場の人と出会い、人権に関する裾野を広げる」「出会った人の思いや志を知ること、自分自身を振り返り、今後の生き方を考える」と設定し、子どもたちは自ら関心のある人権問題を選択して学ぶことができました。

(2) 校種間連携による子ども支援

正和中学校1年生が出身の幼稚園や小学校を訪問し、保育や授業の中で、直接園児の遊びや小学生の学習などをサポートしていく「お出かけピア・サポート」に取り組みました。この取組は、中学校区内の学校・園が連携することにより、中学生の自尊感情を高めることをねらいとしました。



小学生へのサポート

全3回の「お出かけピア・サポート」を終えた中学生は、園児や小学生と係わり合う時間を通して、自分自身の変容や成長を自覚することができました。また、この体験を今後の学校生活で活かしていこうという姿勢が見られるようになりました。

◆実践を振り返って

保護者や地域住民をはじめとする多様な主体が人権学習や体験的な取組を進めたことにより、子どもたちは、地域住民等を身近に感じるようになりました。そして、地域住民から大切にされ認められる経験や、人権問題について深く考えたり、確かな人権感覚を身につけていく機会を得たりすることができました。また、校種間連携により、小学生は、中学生や高校生と出会い、ともに活動を行うことにより、自らの将来像を描いていくきっかけになりました。そして、中学生は、幼稚園児や小学生へのサポートを通して、自らの生活を振り返ったり、自分が認められたりすることで、自尊感情を高めていくことにつながりました。

今後も、学校生活に満足できなかつたり、将来の展望を見出せなかつたり、学習意欲の向上を阻まれていたりしている子どもたち等を取り巻く課題の解決に向け、学校・家庭・地域が一体となり、より多様な主体とのネットワークを広げ、取組を継続していきたいと考えています。